FSCだより

北里大学獣医学部
Kitasato University School of Veterinary Medicine
FIELD SCIENCE CENTER

Vol.81
2024.3.28

FSCの設立趣旨　土地、植物、動物及びそれらを取り巻く環境を生命系として教育・研究を行うとともに、これらの研究成果を通して、広く地域社会の発展に寄与することを目的とする.

ＦＳＣセンター長退任のご挨拶

フィールドサイエンスセンター長　上野俊治

2024年3月末日をもちまして、北里大学を定年退職致します。

北里に赴任早々に開始された獣医学科の牧場実習では、八雲牧場や牡鹿牧場で学生さん達と数日を過ごしたことを思い出します。現在、獣医学科でも牧場実習を復活させようとの動きがありますので、八雲牧場の教職員の皆様にはどうぞよろしくお願いいたします。

また、私の38年間の研究活動の中で、私の研究テーマの一つであった「発がん物質PhIPの発生しない豚肉の生産方法の開発」で、FSC十和田農場にお世話になりました。十和田農場はこの実験には最適の条件を備えており、合計2回の実験を通して有用な実験成績を得ることができました。お世話になった十和田農場の皆様に心より御礼申し上げます。

FSCセンター長をお引き受けしていた時期には、医学部の学生さん達の牧場実習を拝見させて頂きました。施設が老朽化しており、それに加えて異常気象で研修されている皆様にご迷惑をおかけしましたが、向井八雲牧場長のご努力で空調設備の導入が実現し、八雲牧場を実習で使用できる期間がさらに延長できることを期待しております。

この3年間、フィールドサイエンスセンター長としてあまりお役には立てませんでしたが、北里大学獣医学部附属フィールドサイエンスセンターをより多くの関係者の皆様が利用され、教育や研究に欠かせない施設で有り続けることをお祈りし、FSCセンター長退任のご挨拶と致します。

新任職員の紹介

大倉　聡生（おおくら　としき）

□１年を振り返って

１年を通して八雲牧場への牛引き取り、羊毛の販売（スピニングパーティー）など様々な体験をさせていただきました。作業のため資格取得をすることもでき、より仕事の幅が広がったかと思います。この仕事にとてもやりがいを感じていて、とても楽しいです。

□これからの抱負

入職してから1年が経ちましたがまだまだ覚えることが多いです。皆さんの役に立てるような人材になるべくこれからも努力していきますので、今後ともよろしくお願いいたします。

□出身　秋田県能代市

□好きな食べ物　うどん

□志望動機　動物にかかわる仕事に就くのが夢だったため。

退職のご挨拶

八雲牧場　山田拓司

この八雲牧場開設の７年後よりお世話になり４２年、今が在るのも全てが北里、そして牧場が存在した事に尽きます。一時は牧場独自の事業とした「えさプロジェクト」により、当初は技術的にも社会、業界的にも無理があると思いながらも、僅かな盛り上がりとET技術の追従も見え、自分の様な人間でも社会に貢献できるかもしれないと、辛い状況も在りながら成果とは成らずとも夢を見させて頂きました。本当に感謝しております。また、通常業務の中でも多くの体験、多くの技術を習得させて頂き、挫折も味わいながら、約１１０００日以上という勤務の日々を充実し短く感じるほどでもありました。

そして残り僅かな人生に於いては此れまでの経験と半端な自信ですが、どこからでも要請があればいま暫らくはお手伝いしたいと思っております。また蛇足ですが昨今、趣味とするＢＣスキーの雪崩事故が世間を騒がせております、私も同様にお騒がせする事があるかもしれません。しかし捜索費用など全てに保険を掛けておりますので公費にご迷惑をお掛けする事は無いと思います。

僭越ながら「為せば成る、成さねば成らぬ、何事も」自分を見つめ、自分の理、まさるを見つけ出し、各々がスペシャリストを目指して、今後も北里及び牧場の発展に寄与して頂く事を強く願います。

まさしく一生涯お世話になった北里、そして皆様に感謝を伝え、お礼の言葉とさせて頂きます。長きに渡り本当にありがとう御座いました。

左：入職２年目頃の集合写真、中央：29年ほど前の牧場職員で自力で建てたビニール堆肥舎建設の様子、右：37年ほど前の牧草収穫風景（右奥トラック荷台に私）

東京スピニングパーティー2023に出店

日本で唯一のファイバーフェスティバル、全国の紡ぎや織りに関するすべてのものが集結する場

東京スピニングパーティーとは、糸紡ぎから始まる染める・織る・編むなどにかかわる人たちの交流の場として2001年に始まり、今日では80以上の出店者が集まる大きなイベントです。

昨年度までは、レア・シープ研究会を通して羊毛を出品していましたが、今年度は北里大学のブースを設けてもらい、職員が直接十和田農場の羊たちの羊毛を販売してきました。希少品種であるマンクス・ロフタン種の羊毛は飛ぶように売れ、大学としての役割や農場の様子などを大きくアピールすることができました。来年度も参加予定なので、興味のある方やお近くの方はぜひ応援においでください。

写真：出店の様子

次号の予定と編集後記

皆様お久しぶりです。私事ですが、産休育休から復職させていただきました。また皆様のもとへＦＳＣの様子をお届けできることをうれしく思います。

さて、今号はご退職される上野センター長と八雲牧場の山田さんからご寄稿いただきました。ご協力ありがとうございます。お二方とも、長きに亘り獣医学部、FSCにご尽力いただき、大変お疲れさまでした。

そして、今年度十和田農場にて採用された大倉さんのご紹介もさせていただきました。まじめで一生懸命頑張っていますので、皆様からも温かく見守っていただければ幸いです。（編集：岩城）